

## 第2回学校再編計画策定委員会会議録

---

日時：平成31年4月16日（火） 午前10時00分から午前11時52分まで

場所：島田市役所会議棟C会議室

出席：教育長、教育部長、市長戦略部長、行政経営部長、学校教育課長、島田第一小学校長、伊太小学校長、相賀小学校長、神座小学校長、伊久美小学校、初倉小学校長、湯日小学校長、初倉南小学校長、島田第一中学校長、北中学校長

### 1 開会

### 2 あいさつ（教育長）

前回開催のあと、湯日小学校区、北部地区全体、初倉地区全体と3回の意見交換会を開催した。各意見交換会では「今後の学校再編の最終方針については、学校再編計画策定委員会で決めていく」と繰り返し伝えてきたため、本委員会は大変重要な会であると思っている。会の中では、意見交換会の記録に載っている意見だけでなく、ぜひ、各学校のそれぞれの保護者や地域の意見を出していただき、子供や保護者にとってよりよい選択となるような再編を決めていきたい。

### 3 学校再編計画策定のスケジュール（案）について（事務局説明）

次回、第3回学校再編計画策定委員会を5月13日月曜日に開催する。本日の委員会では、本年8月末の学校再編計画策定に向け、前回示した2021年4月に北中学校を島田第一中学校に統合、2022年4月に初倉南小学校、湯日小学校を初倉小学校統合、2024年4月に伊太小学校、相賀小学校、神座小学校、伊久美小学校を島田第一小学校に統合する各再編案の時期、また、対象校について協議していただきたい。

第3回の委員会では、本日協議した内容を踏まえ事務局で作成した再編計画の素案を再度協議・検討し、本委員会の計画（案）をまとめる。その後、5月21日火曜日に北部地区説明会を北部ふれあいセンターで、また5月28日火曜日に初倉地区説明会を初倉公民館で開催する。

説明会開催後、第4回学校再編計画策定委員会で再編計画策定（案）を最終段階としてまとめ、市長と教育委員の意見交換となる総合教育会議を行う。総合教育会議を経て、30日間のパブリックコメントを実施し、8月末の教育委員会定例会に付議事項として提出する予定である。

また、学校跡地利活用検討委員会については、7月から随時開催していく。

### 4 意見交換会の報告について（事務局説明）

#### (1) 北部地区全体意見交換会

3月26日、伊太小、相賀小、神座小、伊久美小の保護者、未就学児の保護者地域住民を対象に北部ふれあいセンターで開催し、110人（保護者81人、地域住民23人、その他6人）が参加した。

意見交換会では、始めに北中学校については、多くの保護者が望んでいるクラス替えができる人数や部活動の数の制限を受けない島田第一中学校へ準備期間等を踏まえ2021年度（令和3年）に統合、小学校については、島田第一小学校の校舎を改修（改築）し、新しくなった校舎で学校運営をスタートさせる2024年度（令和6年）統合（案）を示した。

参加者からは、「通学」や「いじめ」に対する保護者の不安や地域の伝統文化の継承など、地域との繋がりが希薄になること、学校がなくなることによって過疎化が進んでしまうことが不安といった意見が出された。また、伊久美小学校の特認校制度に対する意見も出され、大きな課題であると感じた。

## (2) 湯日地区意見交換会

3月9日、湯日小学校の保護者、未就学児の保護者、地域住民を対象に初倉西部ふれあいセンターで開催し、25人（保護者12人、地域住民4人、その他9人）が参加した。

意見交換会の中では、これまで3回行ってきた初倉南小学校区での意見交換会と同様に2022年（令和4年）4月、初倉小、湯日小、初倉南小の3校同時統合の再編（案）を提示した。また、湯日小児童数の推計表を用い、今年度は児童数が38人でクラス編成は、1年生と6年生が単学級、2年生と3年生、4年生と5年生がそれぞれ複式学級となり、4クラス編成がしばらく続き、2024年度（令和6年）には、全ての学年で複式学級となることを説明した。

## (3) 初倉地区全体意見交換会

3月28日、初倉小、湯日小、初倉南小の保護者、未就学児の保護者、地域住民を対象に初倉公民館で開催し、70人（保護者49人、地域住民19人、その他2人）が参加した。

意見交換会では、始めに湯日地区の意見交換会と同様に2022年（令和4年）4月、初倉小、湯日小、初倉南小の3校同時統合の案を示した。既に初倉南小学区で3回の意見交換会を実施していることもあり、反対意見を持っていて継続的に参加している方からは「以前の質問に対する回答がない」といった声をいただいた。反対の主な理由は、現在の初倉南小学校が各学年2クラス編成の12学級で、国が示す適正規模であることや、島田市教育環境適正化検討委員会の提言より早い時期での初倉南小学校の統合（案）が示されたことが大きな原因であると思われる。当日も「夢育」や「地育」を初め、成果の上がる取り組みをしている初倉地区で、これから島田市として進めていく「小中一貫教育」、その第一歩をこの地区から推進したいという教育委員会としての考えを説明したが、理解を得られていない状況である。

また、受入れ校となる初倉小学校の校舎の充実についても、在籍している保護者からは、「少し狭いのでは」「体育館も小さすぎる」といった、施設面に対する

不安の声が聞かれた。実際 2022 年 4 月に 3 校同時統合をした場合、同校の校舎規模でも普通教室については確保できると予測しているが、増加する教職員や支援員のための職員室の増築、児童数が概ね倍となるための下駄箱の対策のほか、特別支援学級に入級する児童の増加に伴う教室の確保、図工室の増築、現在校舎内にある放課後児童クラブを校舎外に建設するなどの課題は残る。こうした課題については、意見交換会の中でも説明し、同時統合になった場合には、教育委員会の責任の元、対応をしていくことを伝えた。

なお、各意見交換会の詳細やアンケート結果は配布した資料を参考にされたい。

**※各意見交換会の詳細やアンケート結果の資料はホームページに掲載しているものと同じです。**

## 5 協議状況

### スケジュール(案)について

**委員** アンケート結果を見て、意思表示がはっきりしている賛成と反対はわかりやすいが、その他の扱いがとても難しい。

**事務局** 子供の数が減っていく状況から再編は必要なのかもしれないが、いざ賛成か反対かと聞かれると、どちらが良いかわからないという人が多いようだった。

**委員** 第3回に計画(案)が示されたあとに実施する各地区の説明会でも、さまざまな意見が出されると思うが、そうした意見を反映して(案)の修正はされるのか。

**事務局** 第3回の策定委員会では、事務局が作成した(案)をもとに再編の対象校や時期を決めていただきたい。その後の説明会では、これまでに出示された課題や意見に対する回答を提示できるまで準備をしていく。

**委員長** 説明会やパブリックコメントでいただいた意見については、受け入れられるものは受け入れるが、受け入れられないものについては、その理由を丁寧に説明していき、8月末の策定を目指すこととなる。

**委員** 地区によって事情が異なるため、5月21日に予定されている北部地区全体の説明会ではなく、地区ごとの話し合いの場を求めていると聞いた。3月26日に実施された意見交換会でも、伊久美地区の参加者は一人も発言できなかった。そのあたりをどう考えているか。

**事務局** スケジュール(案)には載っていないが、4月21日日曜日に神座自治会長からの要請を受け、地域コミュニティが集まる場に出向いて説明を行うこととなっている。また、伊久美地区についても自治会長から要請を受けたため、希望日時を示していただいて説明に伺うとの回答をしてある。

**委員** 初倉小PTAから、初倉小単独の意見交換会が行われなかった、との声が出ている。神座のように説明に出向いてもらうには、どうすればよいのか。

**委員** 島一小学区の保護者や地域住民も、どんな形の統合を目指しているのかを知る必要があるので、積極的な周知をお願いしたい。

**委員** 第3回の策定委員会で決める再編計画(案)は、ほぼ決定事項として進められると認識した。一方、湯日地区では、学校の跡地利用について具体策が出てこないため、話し合いのしようがないとの声も聞かれる。このまま説明会をしても、どうどう巡りになるのではないかという心配がある。

**委員長** 跡地利用を今から決めておくことは理想的だが、時代の移り変わりが激しいため、跡地利用について今決めても、その時代にマッチしているかわからず、非常に難しい問題である。また、備品整理のほか、改築等が必要になれば、予算化や工事も加わるため、統合と同時に跡地利用をスタートすることはできない。このため、学校再編の方向性が固まってから市長部局を中心に検討を重ねていくことになる。

**委員** 跡地利用では建物をどうするかという問題であり、公共施設マネジメントの概念に入っていくと理解していただきたい。公共施設は将来にわたってランニングコスト等がかかるため、市の財政的な問題もからめて考えなくてはならない。例えば、地元で利用することは大切なことだがその費用をどうするのか。地元で負担できるのであれば良いが、市の負担となるのなら公共施設マネジメントの中で検討することとなる。市としては、そうした費用負担も含めて「40年で20%の公共施設を廃止していく」という大方針を持っている。また、公共施設の大部分は学校教育施設が占めている状況であるため、学校再編計画と同時に跡地利用の計画を出すことは大変難しい。

**委員長** 跡地利用については、先進的な事例を含めて全国で研究が進んでいる。一番の理想は雇用の増加につながるような利用だが、ランニングコストのことも考えると十分な議論が必要になる。また、各地区での説明会のことだが、要請をいただければ説明に伺うため、ぜひお申し出いただきたい。

**委員** 北中は、提言書からも最も早い統合になりそうだ。だからこそ、保護者の思いを聞く必要があるのではと感じる。

**委員長** 学校の保護者はもちろんだが、将来にわたることなので地域の理解も必要である。とはいえ、子供の利益を最優先に学習環境の整えていくべきなので、そのあたりを中心に議論していただきたい。

### 北中と島一中との統合について

**委員** 昨年度、神座小から北中に行かず受験をした子が4名いた。その理由は自分のやってきた部活が北中にないためである。もし島一中との統合が決定事項となるのなら、小学5年生くらいから受験の準備に入るため、やりたい部活があるなら島一中にという保護者や子供に早く示さなくてはならない。

**委員** 伊太小も、今年卒業生12人のうち5人が私学に進学した。毎年このくらい進学している。部活動が理由という子も多く、島一中と統合するなら統合前から部活動を一緒にやっていただきたいという保護者もいる。

**委員** 北中と島一中の統合については反対の声は少ない。むしろ、統合までのソフトランディング(統合の仕方)に対する不安の声が多い。小規模な学校の子供が大人数の学校になじんでいくまでの過程、制服の問題等、不安要素に対する具体的な方法を、説明会である程度示していかなければいけないと感じた。

**委員長** ソフトランディングについては、これから立ち上げるカリキュラム検討委員会の中で考えていかななくてはならない。笹間中の統合でも、授業の交流、制服問題、部活動、クラス編成等、様々な検討事項があがった。いずれも学校間で調整すべきことと思われる。例えば、小規模学校の児童を全てのクラスに均等に在籍させるか、一つのクラスに集中的に在籍させるかは、そのときの子供たちの特性もあると思われ、集団生活になじめるかどうかを学校間で十分に吟味して決めていくことが大切になる。

**委員** カリキュラム検討委員会の中でソフトランディングを考えていくとなれば、北中と島一中を平成33年度に統合するという方針が8月に決定してから委員会を始めるようでは到底遅い。これから進学を迎える子にとっては、新入学説明会よりも早い11月や12月くらいには統合に向けた制服や部活動のことを説明できなくてはいけない。そう考えると6月辺りからある程度並行して対象学校間での協議・調整を進めていくべきではないかと考えている。

**委員** 島一中教職員の間では統合の案がありそうだという事は共有してきたが、正式決定をされているわけではないため、今日まで保護者には何の説明もしてきていない。ここからスタートということが決まってこない限り、学校として保護者に伝えることができないことを理解しておいてほしい。

**委員長** 教育委員会としてのラインを示すことができれば、学校間での協議は始めてよいと思われる。

**委員** 確認だが、カリキュラム検討委員会は、まずは北中と島一中のことについて検討を開始するという事なのか。

**委員** 5月13日のこの席で検討される計画（案）の方向にもよるが、北中と島一中が最も早く統合の時期を向かえることになれば、まずはこの両校で検討を開始することになる。

**委員長** 北中学区に示している、平成33年（令和3年）度の統合だが、この時期については、委員の意見を聞きたい。

**委員** 資料等を読んだり、委員の意見から考えても、この時期での統合という方向でいくことで良いと思われる。ただし、校名の変更など統合の仕方をきちっと決めておく必要があるのではないかと。

**委員** 統合年度を先に決めて残りの期間でコンパクトに進めるというよりは、子供のことを優先に考えて、これとこれをするにはこれぐらいの期間が必要だということを同時に示すことが、これまでの教育委員会の考え方であり、今後の理解を得やすいのではないかと。

**委員長** その通りだと思う。一方で、統合できないがために私学に進学してしまうということがあるのならば、無理する必要はないが、希望に沿うためにコンパクトに進めることも必要かもしれない。時間はいくらあっても十分であると言えない。これまでの地区の意見交換会では、統合までにはおよそ2年が必要と述べてきた。統合する前年は、ソフトランディングするための交流等を行ったり、閉校式典を行うまでの準備や閉校記念誌を作成するための1年となる。しかし、その

前の準備の準備となる1年については、少し縮小できると思っている。これは、過去の体験からである。

**委員** 色んなアンケート結果や話し合いの結果から、北中と島一中については賛成の意見が非常に多いので平成33年度の統合で進めていってよいと思われる。ただし、適正化検討委員会からの提言書に書かれているように、必要に応じて校名や制服を変更したり、新しい校歌を作るということになると、そこから検討して2年では短すぎるため、うまくいかないと思う。一方で、今年入った子たちについては、3年生になって使う補助教材等の話し合いを両校で少しずつ進めている。また、1年生のうちに決めなくてはならない修学旅行についても、2校の生徒が一緒になった人数で見積をとる腹積もりでいるが、ゴーサインの時期が見えていないので、これについてはまだ動けていない。

**委員長** 平成33年度の北中と島一中の統合については、委員の皆さんは理解を得ていると思われる。また、10人中5人も私学に進学という現状は、市の教育にとって大きな課題だと感じている。そういう意味でもあまり遅らせることは、良いことでないと理解してくださっていると思う。

#### 初倉地区の小学校の統合について

**委員長** 教育委員会としては、平成34年（令和4年）度に初倉小、初倉南小、湯日小の3校同時統合という案を提示したが、初倉南小の保護者から反対の意見をいただいた。これについては十分に考えなくてはいけないと思っている。この3校同時統合案について、委員の皆さんの意見を聞きたい。

**委員** 最初にとったアンケートから、人数が減ってくればいずれは仕方ないという声もあり、何が何でも反対という感じではなかった。しかし、現在の初倉南小は、文部科学省が示す標準学級数に合っているのに、突然3校同時案が示され「なぜそうなったのか」という疑問が強く、一番の反対理由になっていると言える。決して理解のない保護者の皆さんではないので、適正化検討委員会を開催した8月の意見交換会の時点に戻って考え直していただきたい。

**委員** 現実的に初倉小の校舎に初倉南小の児童まで受け入れるスペースがあるのか。子供最優先の視点から、十分な学習環境を提供・保証できるかと考えると疑問である。月坂団地ができた影響で学校が分けられた経緯を考えれば、コミュニティの強い地域でもあるので、いずれ人数が減ってきたときにきちっと説明できれば納得してもらえるかもしれないが、現在の人数で慌てて統合を進めることには、理解を得るのは難しいというのが率直な感想である。

**委員長** 事務局の説明では、統合することになった場合は、初倉小に受け入れられる態勢を整えるということだが。

**委員** 湯日小の保護者は統合そのものについては賛成意見が多い。ただ、経験から18学級を超えるような規模の学校になると、生徒指導的にも子供たちのいざかひが多くなる可能性がある。これが初倉地区にあてはまるかはわからないが、大きすぎる学校のデメリットもかなり多い。このため、まずは小規模で統合の希望が強い湯日小と初倉小を統合し、初倉小と初倉南小の児童数が減ってきて18学級で収まる状況になってから再統合という案もありだと思っている。また、湯日小の立



場から考えると、これまでも初倉小との交流は行ってきたので、今後の統合に向けた交流はスムーズに進むと思うが、初倉南小との交流まで考えると時間的にも子供にかかる負担的にも非常に厳しい。もちろん初倉小と初倉南小との交流を加わるので時間的手間が多すぎる。できるだけ湯日小と初倉小だけの統合にとどめて、子供たちのためにもこの2校での濃い交流にしてあげたい。

**委員長** 今の意見だと湯日小と初倉小だけの統合ということだが、仮にこの2校だけとした場合、資料からすると湯日小の保護者には平成34年度より早い平成32年度の統合を希望する声もあるが、その点はどうか。

**委員** 子供たちのことを考えると、委員長が言ったように1年間は交流期間が必要であろう。また、教育課程を組んでいくことを考えると、早くても平成33年度ではないかと思うが、両校でのやりとりを余裕を持って進めていくには、平成34年度が妥当ではないかと考える。

**委員長** 3校同時統合で組み立てると、平成34年度が最短ではないかということ教育委員会の案を示したが、湯日小と初倉小だけの統合となるとできるだけ早くという保護者の意見に答えるためには、少しは早めることも考えなくてはいけないと思ったのですが。

**委員** 初倉小と初倉南小を統合したときのメリットがわからない。当然初倉南小の保護者もわからないだろう。空き教室が一つもない状況が起きそうな初倉小に受け入れることはとても不安だ。体育館で集会をすることを考えても、現在の340人でいっぱいいっぱい、確実に倍の広さが必要だと感じた。3校同時統合のことを保護者に説明するには、統合後について夢のある青写真を示さないと納得していただけないだろう。

**委員長** 現在は各学年4クラスで作られた学校を2クラスで使っている余裕のある状況である。それが4クラスになれば手狭に感じるのは否めない。もともと初倉南小開設時の職員だったが、当時3学級で余裕教室はなかった。そしてオープンスペースを余裕教室と考えて使っていた。

**委員** 基本的には3校同時統合は難しいと思っている。その理由を付け加えるなら、学校統合においては地域が反対でも、複式学級の困難さ等から保護者が賛成することが多く、最終的には子供の学習環境のことを考えて保護者が地域を説得して統合が実現するようだが、現状初倉南小はそのような状況にない。

**委員長** 初倉南小の場合には、地域では賛成の声が多く、保護者には反対の声が多いという、他地区とは異なる状況がある。他地区の統合でよく聞く話には、地域の中で意見が二分し、統合後においても地域の中でしこりが残ることがあるという。委員の皆さんの意見でも「3校同時は難しい、まずは湯日小と初倉小の統合」という形が望ましいとのことなので、その意見は十分に尊重しなくてはならないと思っている。ただし、市長の判断も聞かなくてはならないので、ここでは結論とすることは控えさせていただく。仮に湯日小と初倉小だけとなった場合、湯日小にはできるだけ早い統合を望む保護者もいるので、北中と島一中が平成33年度でできるなら湯日小もできるという考えも生まれてくるので、この辺りも検討させていただきたい。

## 北部地区の小学校の統合について

**委員長** 北部4校については、島一小の改修または改築に合わせて平成36年（令和6年）度に統合という案を示している。5校の統合となるので、大変大きな統合といえるが、委員の皆さんの考えを聞きたい。

**委員** 北部4つの小学校では、全く条件が異なる。中でも伊太小は島一小と学区が隣接し校舎までも近いため、統合はいたしかたないという保護者が多い。しかし、先日入学した8人のうちの一人児童の保護者からは、静岡の大きな学校の学区に住んでいたが、旦那さんの実家が伊太にあったため、小さい学校で落ち着いて学習できるよう移り住んできたという話を聞いた。伊太小にもそういう子がいる。地域には教員も多く「子供たちのために統合が必要」との意見が多かったが、最近では「学校がなくなると、ますます過疎化が進む」「非常時に我々はどこにいけばいいのか」といった声が聞かれるようになってきた。ただ、保護者の多くは「統合ありかな」と感じている。

**委員長** 避難所の問題についてはやはり考えていかななくてはならない。そういった意味では、神座小や伊太小の体育館の改修を、市としてきちんとしていくことが大切であると思う。

**委員** 相賀学区でも、子供の声が地域からなくなることを住民は心配している。地域のコミュニティが廃れる心配はもちろん、伝統の相賀谷太鼓についても学校に向いて指導することがやりがいにつながっていると聞いた。このため、反対というわけでもないが統合後にどう子供たちと関わっていくか、不安視している人もいて、「統合後のコミュニティのあり方までみえてくるとうれしい」という声も少なくもない。

**委員** 神座小学校では、この話が出たときから、例え島一小に行ったとしてもどうどうと自分らしさを発揮して、十分な教育が受けられるようにしていきたいということ伝えてきた。保護者の中には若干の反対意見もあるが、統合に前向きな人が多いと感じている。また、地域としては、学校がなくなるということより、地域における教育がなくなるということに不安視する声がある。北部それぞれの地域は、伝統的に行ってきた地域の教育があるので、それをいかに残していくのかを考えることが、理解を得るために大切なことだと思っていた。このため、初倉公民館のように学校跡地を地域の教育の場として残すことができれば良いと思っていたが、先ほどの公共施設マネジメントの話を聞いて、地域に建物を残していくことは簡単ではないと知り、一層大変だと思った。もう一つ保護者が心配しているのは、コミュニティバスが減ってきていること。現在は市から、丹原や長島の子専用11人乗りのバスを出してもらっている状態なので、しっかりと統合後の通学について保証しなくてはならないと感じている。

**委員長** 北部地区の通学のことについては、コミュニティバスではなく、スクールバスを用意する覚悟でいる。

**委員** 一度建てたものは、必ず朽ちてくる。そのときに、壊すのか、建て替えるのか、または延命工事をするのか、判断することになる。市としては借金の返し方を平準化することが必要で、延命工事もその一つの方法である。地域の皆さんは、自



分たちの地域に建物を残したいと思うことは当然だが、役所としては市全体の財政面を考えて話をせざるを得ないということも理解していただきたい。

**委員長** 例えば相賀小を寺子屋のように使うとしても、全ての建物が必要ではないであろう。クラブハウスや体育館を残すだけで十分なら、他の部分は民間に貸し出したり、取り壊したり、色んな方法が考えられる。0か100かという議論ではない。

**委員** 島一小では統合までに5年ほどあるようだが、改修・改築と同時に統合ということは、クリアしなければいけない課題も多く、実際には非常にタイトだと思うので、できるだけ早い時期からカリキュラム等の検討を始めていくべきである。また、教育面だけでなく施設面においても、耐力度調査の結果に左右されることだが、より魅力的な建物になるよう早くから検討し、不安が期待に変わるように調整を進めていかななくてはならないと思っている。

**委員長** 個人的な意見では、校舎建築の後、1年ほど空けて進めていくのが適切だと思っていたが、統合するのなら新しい校舎で始めたいとの意見も聞かれたため、仮校舎での交流となったとしても、工夫してこれを進めていきたいという判断に至った。島一小と北部4小学校の交流だけでなく、北部4小学校がまとまるための交流も必要だと考えている。北部4小学校の児童がまとまり、より大きな結びつきを持って新しい学校に入っていくことは、子供たちにとってのメリットが大きいからである。これはまさに、該当校5校での工夫のしどころである。

**委員** 人数は少なくとも小学校6年間を家から近い学校で伸び伸び育てたいという保護者の思いと、地域の宝である子供たちを地域の中で育てたいという地域の願い、それぞれに対する気持ちのこもった言葉を計画の中に盛り込んでほしい。

**委員** 伊久美小の保護者の中には「大人数で切磋琢磨することによって学力や人前に立って話す力が向上するというメリットはよくわかるが、自然豊かな環境で学習できる伊久美の良さもメリットであり、それを求めて特認校で遠くから通っている子もいてみんなで楽しく学んでいるのに、なぜそれがダメなのかよくわからない」と感じている方もいる。また、新しい学校にどんな魅力があるのか思っている保護者もいるので、カリキュラム検討委員会にも関わってくるが、新たに立ち上がる学校ではこんなことができ、こんなにも力を付けていくことができるということをしつかりと示して、不安を少しずつ解消させていかななくてはならない。

**委員** 今、大きな人数の中では自分を出し切れない子が、特認校制度を使って伊久美小で伸び伸び楽しく学習しており、保護者もとても安心している。もし伊久美小が統合しても、こうした子供たちに手を差し伸べることもきちんと考えなくてはいけない。だからといって「特認校だから伊久美小を残す」ということではない。例えば、特認校は伊久美小でなくてもよいかもしれないし、横浜や東京などで行われている、不安な子供たちがいつでも利用できる特別支援教室を整備するという事も考えられる。また、地域のことで考えると、伊久美小がなくなっても、サタデーオープンスクールや移動教室など、市内の子供たちが集まってくる場所として活用することは地域にも子供たちにもメリットは大きい。サタデーは、地域の皆さんの力で成り立っているもので、継続していくことが望ましい。

**委員長** さまざまな課題を提示していただいた。総合計画のときの伊久美の人口予測では、2060年時点で全人口が280人となっていた。こうしたことから、色んなものをどこまで残すのか。学校でいったら一人になっても存続するのか。簡単な問題ではないだろう。また、特認校制度のことも重要で、もし伊久美小が統合した場合の特認校をどうするのか、意見をいただきたい。小規模校にしかできないことはたくさんある。一方で、出張のときの教職員のやりくりや自習体制のことなど課題も多い。実際に笹間中から笹間小に出向いて生活科の授業を行ったこともあった。それから笹間中の子たちが川根中に入ったとき、1学期の成績がみんな下がった。笹間中の子たちの学力は大変高かったが、挙手をせずにつぶやきで授業をしていたことが影響したようだった。それまでは4、5人のクラスだったので1時間に何十回も発表する機会があったのに、川根中では挙手をしなければ当たらないため1回か2回しか発表しなくなったことが原因だろうと反省した。この経験からも大きな社会に出て行ったときに相当大変になるなど感じたこともあり、これは大きな学校のメリットともいえる。小規模校にも、大規模校にもメリット、デメリットはあるだろう。

**委員** 特認校制度開始のときに教育委員会にいた。この制度は、決して人数が少ないからではなく、伊久美の良さを残すことが島田の教育という考えで始まった。また、サタデーオープンスクールも伊久美の環境の良さを教育に活かそうという目的で開校した。もし、特認校が伊久美小でなくなったとしても、伊久美のすばらしい環境を子供たちの教育の場として活用できるようにしたい。

**委員長** サタデーオープンスクールも移動教室も、伊久美は山や川などがあり位置条件に恵まれている。これに匹敵するのは川根小くらいではないかと思う。湯日地区からも特認校にぜひという声があがったが、川という面で少し問題がある。夏場の川の魅力は大変大きい。

**委員** 伊久美の中では、試行線も廃止されて地域が忘れ去られるのではないかという不安もある。川根小でも雲見という地域からスクールバスのバス停まで車で20分以上かけて降りてきて通学している子がいるので、通学のことはスクールバスで対応する計画をきちんと示して不安を少しでも解消したい。

**委員長** 地域からは「あまり遠くから通うと、例えバスでも子供たちが疲れてしまう。」という意見もあった。しかし、20年、30年先を見据えて計画していかななくてはならないだろう。

### 協議全体を通して

**委員** 今回の協議で、初倉地区の3校同時は難しいとの印象を持った。初倉小に初倉南小の子が入るには改修が必要となり、資産では約1億5千万円となっている。また、近い将来初倉小は長寿命化の工事が必要となるため、この改修した費用が無駄となってしまうだろう。こうしたことも踏まえての計画を考えていく。北部の小学校については、島一小の改修時点がベターな時期と思われる。また、北中と島一中については、北中の保護者の声もあるので早め統合という計画になるだろう。なお、校舎の維持には非常にランニングコストがかかる。市としても縮充

という考え方を進めており、大切な教育の費用であっても市全体の財政面を考えていかねばならないことを理解してほしい。

**委員** 北部については、アンケートからも伊久美小をどうするのかということが大きな問題であるため、地域ともっと話をした方が良いと感じたところだ。ただし、島一小を含む5校による統合という方針を変えるべきではないと思っている。初倉地区については、アンケートをみても最初に湯日小、その後初倉南小ということに理解を示している人もいる。なので、時期はおいておき、このあたりを丁寧に説明していけば、初倉南小の今後も含めた計画を出せるのではないかと思う。3校同時は難しいだろう。

**委員** 湯日小の保護者には平成34年度では遅いという意見もあるが、平成34年度でよいという声もあるので、バランスが大変だと思った。

**委員** 地域や保護者は、この会議に対象校の各校長が出ていることを知っている。いずれ記録が公開されると思うが、学校に戻って尋ねられたとき、どの程度答えてよいものだろうか。校舎費用や市全体の財政面など、地域の方にとって心苦しい話題もあった。

**委員長** この会議で話し合われたことはオープンにしていく。予算の面なども事実であるため、しっかりと伝えていくことが客観的な理解にもつながっていくだろう。こうした大きな問題は、やはりきちんと出していくべきだと思っている。

#### 終わりに

**委員長** 一部だけで議論するのではなく、色んなところで議論の渦が巻き起こることこそ理解を深め、皆にとってベターな方向に迎っていくと感じている。委員の皆さんには、保護者や地域の方と話し合う機会を多く作ってほしい。

## 6 閉会